

a 学校教育目標	将来をたくましく切り拓いていく力を身につけた生徒の育成	b 経営理念 ミッション・ビジョン	【ミッション】(自校の使命) 社会のために役立とうとする志を抱く生徒の育成 【ビジョン】(自校の将来像) 信頼される学校 (保護者「通わせて良かった」、生徒「ここで学んで良かった」、地域「母校として誇れる学校」)
----------	-----------------------------	----------------------	---

評価計画						自己評価					改善方策	学校関係者評価			
	c 中期経営目標	d 短期経営目標	e 目標達成のための方策	f 評価項目・指標	g 目標値	10月	2月	i 達成度	j 評価	k 結果と課題の分析	n 改善方策	l 評価			m コメント
						h 達成値	h 達成値					イ	ロ	ハ	
確かな学力	主体的に学ぶ生徒の育成	授業改善の推進	○主体的な学びの推進 ○ICT及び思考ツールの活用 ○アウトプット型授業の推進 ○年間一人一回以上の研究授業及び相互参観	①「授業で表現活動を多く取り入れている」と回答する生徒の割合【R5-87%】	90%	94%		104%	A	教科特性に応じた表現活動が行われている。また、R80Iによる振り返りの交流が、今回の数値に表れていると考えられる。一方、最も高い評価4は75%であるため、肯定的評価が高くあっても改善の余地がある。	ペア・グループ活動については、必要性に応じて、今後も継続して取り組んでいく。また、R80Iについては、内容の交流も授業時間内におさまるようにし、自身の意見を伝えたり、他者の意見にふれたりすることができるようにする。	5			・「学びあい」が上手に取り入れられてどの学年も自分の意見をしっかりと伝えたり他者の意見を受け止めることができている。素晴らしいです。 ・実力テストの全国平均が上回るためには基礎学力が一定程度身に付いていなければならない。課題は見えているので解決に向けた方策を確実に実践してほしい。 ・授業中の姿勢の良さがよかったことがとくに印象に残りました。
		基礎学力の向上	○「授業モデル」を活用した授業づくり ○学力調査の結果を活用した授業改善	②実力テスト等で全国平均を上回る生徒の割合。【R5-49%】	70%	57%		82%	B	1年生75.4%、2年生49%、3年生37.5%と学年間の差が大きい。また、平均を下回る生徒の65%が10p以上下回っているという課題がある。	朝活のミライシード、セミナーや新研究などの取組を継続し、既習内容の定着を図る。また、週末課題にアシストシートを活用し、苦手領域の克服に取り組む。	5			・確かな学力の向上のために。小中連携が必要・大切だと思います。 ・家庭学習の時間についてはある一定時間は確保できるよう保護者も交えた取組の必要性を感じる。
豊かな心	自他を認め合い、共に高まる生徒の育成	発達支持的生徒指導の推進	○異年齢集団活動、生徒の自主的活動の充実 ・全校縦割による清掃活動や各種行事等の充実 ・学校行事、生徒会活動の充実	自己肯定感・自己有用感に関する質問において肯定的評価の割合【R5-83%】	90%	88%		97%	B	生徒会や3年生が中心になり、自主的・主体的な姿を見せてくれている(特に縦割りで行う運動会や掃除等において)。また、このような活動において、生徒同士での肯定的相互評価が行えていること等が要因にあげられる。	ここ数年は数値が向上または高い位置(以前は6割程度)にある。現在の取組を継続させていく。またQUのデータともリンクさせ、SCとの連携を行い、生徒の個別面談等の場面を増やす。	5			・異年齢集団・縦割りによる活動は生徒会、上級生がリーダー的存在としてよく機能していると思います。引き続き、QUのデータ活用とSCとの連携を強化してください。 ・私見ですが、子供たち一人一人が学校、教室に自分の居場所があるので伸び伸びと学校生活を送っているようにみえました。このまま伸ばしてほしいところです。 ・運動会では3年生が下級生をリードしている姿が多く見られた。
		社会人としての自覚の醸成	○奉仕活動・社会貢献活動の推進 ・献血ボランティア活動・地域や校内ボランティア活動の充実 ・校区内小学校との清掃活動	「主体的にボランティア活動に取り組んでいる」と回答する生徒の割合【R5-73%】	80%	78%		98%	B	本校の伝統に定着してきた献血ボランティアを始めとする活動が十分に実施できた。また小中合同での地域清掃でも積極的な活動ができ、リーダーとしての意識も向上できた。	生徒会を中心に活動が定着している。様々な角度から肯定的評価を返し、情報発信を行いながら活動の充実・向上をさせていきたい。	5			・この分野も目標達成という点ではクリアできなかったが独自の取組や生徒のボランティア活動への自主的かつ積極的な参観など、子供の社会性は明らかに成長していると感じられ、取組自体は評価できる。 ・献血ボランティアだけでなく地域に根付いた活動をもう少し増やしては？と思いました。糸崎地域は高齢化が進んで献血できない人が多いと思います。
健やかな体	自らの健康を自ら管理できる生徒の育成	体力・運動能力の向上、食育の推進、健康的な生活習慣の確立	○新体力テスト結果の分析に基づく体力向上の取組 ○「弁当の日」の取組 ○基本的生活習慣の確立	①平日睡眠7時間以上の生徒の割合【R5-87%】	90%	88%		98%	B	就寝時間は、登校日と休日では変化はないが、約17%の生徒が11時以降に就寝している。幼少期からの生活が固定化している生徒が多く、一中ブロックでの取り組みを強化していく。	保健だよりで基本的生活習慣について啓発すると共に、保健室入室時に個別の保健指導を充実させる。また、担任と連携して懇談などで健康的な生活について情報発信をしてもらう。	4		1	・生徒の保健室利用状況はどうか。就寝時間、睡眠時間については学校と保護者の協力と生徒の意識改革が不可欠だと思います。 ・保護者の意識が変わらないと子供は成長できません。一中の先生方はよくやっておられます。 ・基本的生活習慣の大切さを指導してほしい。 ・新体力テストの結果分析に基づく具体的な取組を進めてください。
信頼される学校	教職員の職務遂行意欲の向上	時間外勤務時間の縮減	○働き方改革の推進 ・部活動休養日、定時退校日の徹底 ○業務の効率化 ○各種行事の精選・見直し	①生徒の完全下校後、2時間10分以内に退校する職員の割合【R5-83%】	90%	77%		91%	B	平日時間外勤務45時間を超えた職員は4月4人、5月3人、6月4人、7月1人、8月0人であった。該当職員はやや固定化されている。	見通しを持たせる声掛けや仕事の進捗等から優先事項を決めるなど具体的な仕事の効率化を求めていく。加えて、週1日の定時退校日を徹底させていく。	3	1	1	・子供と向き合う時間の確保を最優先に考えてください。働き方改革も浸透しつつある中で退校時間についてもしっかり取り組まれていて今後ますます改善されていくと思われます。 ・部活動休養日は教職員にとっても生徒にとってもリフレッシュとなり、有効だと思う。 ・大前提は信頼される学校づくりだと思う。その手段として教職員の職務遂行意欲の向上があり、時間外勤務の弊害がそこに現れているのなら改善しなければならない。

【j: 自己評価 評価】
A: 100≦(目標達成) B: 80≦(ほぼ達成)<100
C: 60≦(もう少し)<80 D: (できていない)<60

【l: 学校関係者評価 評価】
イ: 自己評価は適正である。 ロ: 自己評価は適正でない。
ハ: 分からない。